

から見て当後期に属するものである。

こ^とと桐竹鳳文が転化されたことが知られる。しかしこれは手法の(151)を(119)年(の一群中に見るから、それが早くから描かれたわし、そのために高雅と情趣に乏しい。しかしほとんど同様のもたどり、桐葉は紋章化されている。型にはまってしまう近代的な思潮を表楚々と生し、その間に双鶴が立って亀口とも接嘴して友愛をかわ清流がめぐる坡上に梧桐が繁って花は盛り、それに伍して蒼竹が

420

一・一一・一一・一
反一・一一・一一・一
青銅、伝世古、重三八・八
亀甲紋中高亀鈕、管状式二重圈、直角式高縁高九・七、^{ハート}径